

令和7年度

東京都中学校体育連盟

バドミントン部専門委員総会

令和7年4月28日(月)

1, 開会の挨拶

2, 令和6年度 事業報告

- ・総務委員会
- ・競技委員会
- ・審判委員会
- ・指導普及委員会

会計報告 会計委員会

3, 役員委員の改選

4, 令和7年度 事業計画

- ・総務委員会
- ・競技委員会
- ・審判委員会
- ・指導普及委員会

予算案 会計委員会

5, ブロック顔合わせ・委員長・副委員長確認

日程等打ち合わせ

6, その他

7, 閉会の挨拶



都中体連バドミントン部公式ホームページ

<http://tokyo-ctrbad.com/>

東京都中学校体育連盟バドミントン部

検索

※年度内に、新ホームページを立ち上げ予定

令和7年度

役員・委員

役員 顧問	横田 和長	(杉並区立富士見丘中学校)
	溝口 千里	(板橋区立志村第五中学校)
参 与	田極 政一郎	(武蔵野市教育委員会)
	島 朝樹	
部 長	新井 博幸	(板橋区立志村第五中学校)
副部長	鈴木 寛	(大田区立石川台中学校)
会計監査委員	渡辺 英俊	(青梅市教育委員会)
	原 善哉	(奥多摩町立奥多摩中学校)

推薦常任委員 (各実務委員 委員長・副委員長)

馬場 公浩	(多摩市立鶴牧中学校)	大森 洋明	(府中市立府中第八中学校)
清水 正人	(八王子市立第六中学校)	磯貝 友美	(葛飾区立奥戸中学校)
中尾 佳彦	(北区立王子桜中学校)	吉田 篤郎	(江東区立深川第三中学校)

推薦専門委員 (各実務委員)

石原 春彦	(稲城市立稲城第三中学校)	佐藤 雄司	(足立区立花畑中学校)
氏井 聡	(東村山市立東村山第三中学校)	松本 幸雄	(八王子市立ひよどり山中学校)
小野寺 達彦	(淑徳巣鴨中学校)	佐々木 しおり	(淑徳巣鴨中学校)
下川 勝久	(江戸川区立鹿骨中学校)		

ブロック役員 (委員長・副委員長)

	ブロック委員長	ブロック副委員長	
A	長崎 秀史 (渋谷区立広尾中学校)	青木 栄祐 (大田区立大森第四中学校)	重野 真介 (品川区立伊藤学園)
B	飯田 到 (練馬区立大泉中学校)	井浦 亨 (板橋区立高島第三中学校)	
C	久保 博也 (足立区立第七中学校)	横谷 真恵 (足立区立六月中学校)	古川 哲也 (江戸川区立小岩第三中学校)
D	青森 一博 (八王子市立たがの杜小中学校)	中條 洋一 (府中市立府中第十中学校)	井上 幸治 (多摩市立和田中学校)
E	岸 賢司朗 (小平市立小平第二中学校)	合田 洋平 (国立市立国立第二中学校)	高寺 徹 (小平市立小平第二中学校)
F	徳田 大俊 (神津村立神津中学校)		

実務委員会

総務委員会

委員長	馬場 公浩	(多摩市立鶴牧中学校)	
副委員長	大森 洋明	(府中市立府中第八中学校)	
委員	石原 春彦	(稲城市立稲城第三中学校)	岸 賢司朗 (小平市立小平第二中学校)
	青木 栄祐	(大田区立大森第四中学校)	

競技委員会

委員長	飯田 到	(練馬区立大泉中学校)	
副委員長	中條 洋一	(府中市立府中第十中学校)	青森 一博 (八王子市立たがの杜小中学校)
委員	井上 幸治	(多摩市立和田中学校)	佐藤 雄司 (足立区立花畑中学校)
	長崎 秀史	(渋谷区立広尾中学校)	重野 真介 (品川区立伊藤学園)
	井浦 亨	(板橋区立高島第三中学校)	久保 博也 (足立区立第七中学校)
	横谷 真恵	(足立区立六月中学校)	古川 哲也 (江戸川区小岩第三中学校)
	徳田 大俊	(神津村立神津中学校)	

指導普及委員会

委員長	清水 正人	(八王子市立第六中学校)	
副委員長	合田 洋平	(国立市立国立第二中学校)	磯貝 友美 (葛飾区立奥戸中学校)
委員	氏井 聡	(東村山市立東村山第三中学校)	松本 幸雄 (八王子市立ひよどり山中学校)
	佐々木 しおり	(淑徳巣鴨中学校)	小野寺 達彦 (淑徳巣鴨中学校)

審判委員会

委員長	中尾 佳彦	(北区立王子桜中学校)
副委員長	吉田 篤郎	(江東区立深川第三中学校)
委員	下川 勝久	(江戸川区立鹿骨中学校)

会計委員会

委員長	高寺 徹	(小平市立小平第二中学校)
-----	------	---------------

総務委員会

令和6年度反省

【業務内容】

1. 常任委員会・専門委員会招集、文書作成と発送、会議の司会と記録、大会時のチーム受付・司会進行
2. 反省事項と申し送り事項
 - 1) 常任委員会の招集、会議録と報告書の作成
 - 会議録は電子データとして作成・管理することを今後も継続する。
 - 2) 都教委・中体連本部への結果報告
 - 電子メールによる報告を今後も継続する。
 - 都総体は、都総体のまとめを担当する中体連の担当者にこれまで通り送付する。
 - 3) 大会時のチーム受付・司会進行
 - はじめにチーム受付を行い、参加確認書の記載事項の確認と、監督証・コーチ証・外部指導者証の受け渡しをしてから競技部での選手受付を行うことで、役割分担を明確化し、本部での確認漏れなどのミスが減らすことが出来た。
 - 監督証・コーチ証・外部指導者証を作成し、大会時に携行する方法をとった。なお、外部指導者証については、申請中コピー提出時のみ、総務が用意した外部指導者証を携行することとし、IDカードを所持している場合は、そのIDカードを携行することとした。
 - 監督証・コーチ証・外部指導者証については、会場から退出する前に総務受付に返却するシステムとしているが、持ち帰ってしまうケースが数件見られたので、次年度以降、対応策を考える必要がある。
 - 4) 中体連バドミントン部公式ウェブサイトの管理
 - 公式HPの作成を総務委員会が担当。大会実施の有無などを適宜掲載するように心掛けた。
 - 今後のHP作成のし易さや、引き継ぎのことも鑑み、新HPの立ち上げをすすめている。
 - 5) 協会登録
 - 日本バドミントン協会の登録は、顧問（責任者）が登録するシステムで行った。
 - 新規団体登録は、総務部内協会登録担当者が行う必要がある。
 - 協会登録担当者ではなく、都協会に直接問い合わせるケースが散見された。
 - 公式ホームページ内、東京都バドミントン協会関連ブログに、協会登録の内容を掲載し、周知した。次年度も引き続き、東京都バドミントン協会関連ブログ内に掲載していく。

令和7年度業務予定

【業務分担】

	馬場	大森	石原	岸	青木	合田	中尾	松本
1. 常任委員会・専門委員会の招集、司会進行	○							
2. 会議録の作成・保管		○						
3. 大会時の総務受付、監督証等管理			○	○	○			
4. 開閉会式の司会進行	○							
5. 賞状・副賞準備				○				
6. 競技結果の記録および保管、都教委・中体連本部への結果報告		○			○			
7. 中体連バドミントン部公式サイト管理	○	○		○				
8. 専門委員名簿・常任委員名簿の作成	○	○						
9. 協会登録			○					
10. 地域スポーツ団体管理						○		
11. 外部指導員の登録							○	○

※合田先生・松本先生は、指導普及委員の業務と兼務する。中尾先生は、審判委員の業務と兼務する。

東京都総合体育大会

兼 東京都中学校バドミントン選手権大会 開会式について

兼 関東中学校バドミントン大会予選会

1. 団体戦の日は、受付を済ませた後、選手は各ブロックの整列位置に移動し、9時15分までに整列を完了してください。
2. 整列位置の詳細は常任委員会で配布しますが、以下を原則とします。
 - ・プラカードを持つ生徒は、各ブロック女子1位の主将とします。
 - ・プラカードを持っている生徒の後ろに、各校1列で並んでください。
 - ・各ブロックとも本部に向かって右に男子、左に女子となるように並んでください。
 - ・1位・2位が最前列、1位の後ろに奇数順位の学校、2位の後ろに偶数順位の学校が並びます。
3. 入場行進は、プラカードとの間隔を約2メートル空けた上、左右の列を揃えて行います。
4. 退場行進は、Aブロックの男子に続いて女子、Bブロックの男子・・・のようにプラカードを持った生徒に続いて行進します。なお、会場の都合によっては、外側のブロックから同時に実施や、退場行進自体を行わないことがあります。
5. 式次第
 - ①開会宣言
 - ②優勝杯（団体及び個人）返還ならびにレプリカ授与

男子：団体=淑徳巣鴨中	シングルス=北区立浮間中	ダブルス=淑徳巣鴨中
女子：団体=淑徳巣鴨中	シングルス=慶應義塾中等部	ダブルス=淑徳巣鴨中
 - ③挨拶
 - ④大会実施上の諸注意

競技上の注意	〔 競技役員長 〕
審判上の注意	〔 審判委員長 〕
会場使用上の注意	〔 会場指導委員長 〕
 - ⑤閉式通告

都大会表彰規定

大会名	種目	順位	賞状	副賞
都総体選手権	団体	1位	都教委+都中体連	カップ（都中・要返却）・メダル（都教委・都中体連各8個）
		2位	都教委+都中体連	メダル（都教委・都中体連各8個）
		3位	都教委+都中体連	メダル（都教委・都中体連各8個）
	個人	1位	都教委+都中体連	カップ（要返却）・トロフィー（中体連）・メダル（都教委）
		2位	都教委+都中体連	トロフィー（中体連）・メダル（都教委）
		3位	都教委+都中体連	トロフィー（中体連）・メダル（都教委）
新人	団体	1位	都中体連	カップ（要返却）・メダル（8個）
		2位	都中体連	メダル（8個）
		3位	都中体連	メダル（8個）
	個人	1位	都中体連	楯
		2位	都中体連	楯
		3位	都中体連	楯

※団体戦のメダル(4cm)は各校8個を用意する。

※個人のメダル(4cm)は、一人1個を用意する。

※賞状は、団体：A3版ノビサイズを各校1枚 個人：A4版ノビサイズを各人1枚用意する。

※選手権大会の賞状・副賞（団体：メダル・個人：トロフィー）は都教委に加え中体連も授与する。

※関東大会出場校には別途賞状を授与する。

※新人大会（団体戦）前年度1位にはレプリカを授与する。

	種目	優勝	準優勝	3位	3位
選手権大会	男子団体	淑徳巣鴨中学校	大田区立 大森第四中学校	実践学園中学校	中央区立 佃中学校
	女子団体	淑徳巣鴨中学校	大田区立 大森第四中学校	東京家政学院 中学校	実践学園中学校
	男子 シングルス	坂口 功	金岡 壮達	向井 蓄音	福成 翔太
		北区立 浮間中学校	TAMA XX	武蔵村山市立 第三中学校	江東区立 深川第三中学校
	男子 ダブルス	横田 絆 岩佐 幸太郎	鈴木 蒼介 田中 星太郎	高橋 新 川畑 海希	佐々木 陽斗 本橋 潤一
		淑徳巣鴨中学校	八王子市立 第六中学校	大田区立 大森第四中学校	小平市立 小平第二中学校
	女子 シングルス	青木 愛	佐藤 帆志乃	佐藤 雫	水尻 茉那
		慶應義塾中等部	淑徳巣鴨中学校	大田区立 大森第四中学校	淑徳巣鴨中学校
	女子 ダブルス	高橋 結衣 福田 咲貴	藤井 円花 齋藤 翼	栗野 莉央 郎 熙然	末廣 瑠夏 有村 陽南
		淑徳巣鴨中学校	淑徳巣鴨中学校	淑徳巣鴨中学校	東京家政学院 中学校
新人大会	男子団体	淑徳巣鴨中学校	大田区立 大森第四中学校	実践学園中学校	中央区立 佃中学校
	女子団体	淑徳巣鴨中学校	実践学園中学校	AdacHI	東京家政学院 中学校
	男子 シングルス	石井 春馬	金岡 壮達	山下 凜々人	杉本 煌希
		東京都立南多摩 中等教育学校	TAMA XX	淑徳巣鴨中学校	西東京市立 明保中学校
	男子 ダブルス	高橋 真生 岩瀬 剛大	田中 星太郎 尾副 凜和	穴倉 拓海 斉藤 寛武	富屋 歩希 高橋 海
		淑徳巣鴨中学校	八王子市立 第六中学校	大田区立 大森第四中学校	中央区立 佃中学校
	女子 シングルス	青木 愛	水尻 茉那	深串 紗希	有賀 結衣
		慶應義塾中等部	淑徳巣鴨中学校	練馬アドバンス バドミントンクラブ	中央区立 佃中学校
	女子 ダブルス	福田 咲貴 郎 熙然	齋藤 翼 福澤 いち乃	小野 未玲菜 南立 紗希	青柳 陽咲 村上 笑瑠
		淑徳巣鴨中学校	淑徳巣鴨中学校	実践学園中学校	AdacHI

競技部

令和 6 年度事業報告

- ①選手権大会、新人大会の運営を円滑に行うことができた。
- ②選手権大会（葛飾区水元総合スポーツセンター、東京体育館）
新人大会（葛飾区水元総合スポーツセンター、稲城市総合体育館）
冬季大会（練馬区総合体育館、稲城市総合体育館）
※3大会を各自治体の協力を得て、公共の体育館で実施することができた。
- ③生徒の安全に配慮して大会を運営した。
- ④各大会において、参加確認書の提出を徹底した。
- ⑤大会会場となる体育館との事前打ち合わせを行った。
- ⑥プログラムのデジタル化を継続した。
- ⑦組み合わせ会議では、前日までにメールで仮申し込みをすることにより、当日の組み合わせがスムーズに行えた。

令和 7 年度事業計画

- ①選手権大会、新人大会の運営を円滑に行う。
- ②次年度の大会会場を確保する。
- ③生徒の安全に配慮して大会を運営する。
- ④各大会において、参加確認書の提出を徹底するようにする。
- ⑤大会会場となる体育館との事前打ち合わせを行う。
- ⑥プログラムのデジタル化を継続する。

大会実施上の規定

東京都中学校体育連盟バドミントン競技部

<大会参加に際して>

- (1) 参加者（選手、監督、コーチ）並びに保護者、応援生徒等の帯同者は、本大会が東京都の中学校生徒を基盤とした学校教育活動下での大会であることを認識し、その歴史的な意義や品位を保つ行動を心がけてください。
- (2) 受付後の競技場入場時には、大会実行委員会から発行されたＩＤカードを必ず掲出してください。
- (3) 参加者は、服装等を整えるとともに、大会運営に協力してください。
- (4) 選手は、儀礼（表彰、試合入退場・あいさつ時）の際は、上衣の裾は下衣の中に入れてください。

1 受付

大会開始時刻までに参加校の引率者が必ず公印を押した参加確認書を提出し、受付を済ませる。引率者が部活動指導員の場合は、部活動指導員確認書（校長承認書）も提出する。

2 監督・部活動指導員・コーチ・外部指導者・引率者

- (1) 参加生徒の監督・引率は、出場校の校長・教員・部活動指導員とする。部活動指導員が引率・監督を務める場合には、所定の「部活動指導員確認書（校長承認書）」に必要事項を記入し、大会事務局に参加申込時に提出する。なお、部活動指導員は拠点校方式チームを除いて他校の引率者にはなれない。（省令の言う部活動指導員と外部指導者とは違う。）地域クラブ活動の監督・引率は代表者・指導者とする。

①小中一貫教育を行う学校において、都教委より小中兼務の発令を受けている小学校教員は、中学校の教員と考える。

②ここでの教員とは公立学校の教諭・再任用教諭、私立学校教員のことである。

③複数の教員が引率する場合は、1名を監督、他の者をコーチとする。競技フロア内では監督証、コーチ証を常に着用する。

(2) 監督・引率者の特例

東京都中学校体育大会の生徒参加について、日常指導している校長・教員・部活動指導員又は代表者・指導者が引率できず、校長又は代表者がやむを得ないと判断した場合に限り、次に示す「監督・引率細則」により、校長又は代表者が承認した者の引率による参加を認める。ただし、細則による規程は、東京都中学校体育連盟が主催する大会に適用する。

※「監督・引率細則」に関しては令和7年度東京都中学校体育大会実施要項、7ページにある「監督・引率細則」に準ずる

- (3) 東京都中学校体育連盟が主催する本大会に出場するチーム・選手の引率者、監督、部活動指導員、外部指導者、トレーナー等は、部活動の指導中における暴力・体罰・セクハラ等により、任命権者または学校設置者から懲戒処分を受けていない者であることとしている。校又は代表者はこの点を確認して大会申込書を作成する。なお、外部の指導者は校長又は代表者から暴力等に関する指導処置を受けていないこととする。
- (4) 監督・引率者は応援の者を含めて、最後まで責任をもって生徒を指導する。また、監督・コーチ・外部指導者・部活動指導員は、大会要項・競技規則・大会実施上の規定・本部の指示などを遵守し、大会運営に協力する。

3 試合

- (1) 試合では常にフェアプレーを心がけ、行動を速やかにする。また、相手を威嚇したり、不快の念を抱かせないようマナーに注意する。
- (2) 汗ふき及び水分補給、靴ひもの締め直し、ラケットの交換等が必要な場合は、主審の許可を得る。ただし、水分補給はフロアでの水分補給が認められている場合のみとし、入れ物はフタの閉められるものとする。
- (3) 団体戦の試合前後には、選手と監督が整列し、あいさつをする。
- (4) 団体戦では、対戦相手が決まり次第速やかに本部にオーダーを提出し、選手は会場内に待機する。
- (5) 団体戦の1対抗を複数コートで行う場合、試合順にかかわらず団体の勝敗が決した時点で他の試合を打ち切る場合がある。
- (6) 団体戦でコートサイドの選手席に入れるのは、当該チームの登録選手及び監督・コーチ・外部指導者とする。コーチ席にはそのうち2名以内とする。コーチは公認審判員規程第5条第12項コートの外からのアドバイスを厳守すること。
- (7) 選手はシャトルがインプレーでないときに限り、コーチ席より試合中にアドバイスを受けることができる。ただし、プレーの進行を遅らせてはならない。
- (8) インターバルの時にコートでアドバイスできるのは、当該チームの監督・コーチ・外部指導者・生徒1名のうち2名以内とする。コーチはコートサイドでマッチにふさわしい服装で臨み、体育館シューズで入場すること。(スリッパ・サンダル・裸足は不可)
- (9) インターバルを除いて、選手は主審の許可なくコートを離れることはできない。
- (10) 審判への質問については、審判員の判定に対して疑問のある場合は当該プレーヤーが、団体戦の場合は当該プレーヤーと監督に限り質問することが認められる。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。

4 服装

- (1) 頭髮、服装は大会の品位を損なわないものとし、さっぱり整える。競技用ウェアは(公財)日本バドミントン協会審査合格品とする。シャツは東京都中学校体育連盟バドミントン競技部認定のウェア(関東記念ウェア過去3年まで)については、着用を認める。
- (2) 上衣背面中央部には、縦20cm、横30cmの範囲内にチーム名の表示をすること。その際に、競技用ウェア上衣背面にロゴや規定外の文字を直接プリントしている場合は、ゼッケンを用い、四隅を留めてそれを見えないようにすること。文字の大きさ等に関しては(公財)日本バドミントン協会競技規則大会運営規程第4章第24条に準ずる。
- (3) 上衣の背面中央に必ずチーム名を明記(上段:チーム名、下段に姓を入れても良い)する。姓を入れる場合チーム内に同姓がいる場合には名前の一文字目を小さく入れること。ゼッケンを使用する場合、白の布地で縦20cm、横30cmの大きさを基準とする。(ゼッケンの場合の文字の色は、黒色または濃紺色とする。)文字列、背番号は視認性の高い文字(楷書体・明朝体またはゴシック体のような文字)、数字(算用数字)を使用し、文字、数字の色は上衣背面色と明確に区別できる色とする。
※アルファベットを用いる場合は、大文字を使用することを推奨
- (3) ウェア(上衣)の前面には、(公財)日本バドミントン協会競技規則大会運営規程第4章第24条において、複数行の文字列の表示と、前番号の表示を認めているが、中学生が広告媒体となることはふさわしくないとの観点から、広告やスポンサー名およびスポンサーロゴは禁止とし、表示できるのは学校名・チーム名、またはその一般的略称に限る。

①複数行の文字列は、高さ10cm、横40cmの範囲内に納まるものとする。

②文字列は装飾文字を使用してもよく、単一色と限定しない。

③前番号はウェア（上衣）前面の胸下に背番号と同一番号をつけるものとする。

大きさは高さ8cm以内、一桁横4cm以内とし、二桁以内とする。

（4）健康器具などのネックレスや手首等にバンドなどを着用しての試合を禁止する。

5 応援・会場使用

（1）応援は、拍手（手拍子等リズムを取ることも含める）並びに声援による。

（2）鳴り物の使用、足を踏み鳴らす行為等の応援は認めない。団扇を叩くのは不可とする。

（3）フロアでの写真や動画の撮影については原則不可とする。フロアを除く会場内での撮影は許可するが、会場の電源の使用はしない。報道機関や学校から依頼された業者（卒業アルバム等）等の撮影については、事前に競技役員に許可を取る。

（4）個人で撮影した画像や動画をSNSなどを通じて、インターネット上に公開しない。

（5）空いたコートを勝手に使用しない。また、競技フロア内では試合の進行を妨げないように注意する。

（6）体育館シューズと外履きの区別は会場のルールをしっかりと守る。

（7）指定された場所以外には、絶対に立ち入らない。

（8）カン・ビン類、菓子類は一切持ち込まない。

（9）昼食は指定された場所でとる。ゴミは必ず持ち帰り、会場やその周辺には残さない。

（10）更衣室には荷物を放置しない。特に貴重品は各自又は学校ごとに管理する。

（11）その他、会場の使用にあたっては、会場のルール及び本部の指示に従う。

6 審判

（1）試合に負けた学校及び本部より指定された学校の生徒は、ただちに、本部の指示に従って、指定された試合の審判（主審・線審・得点表示）を担当する。

（2）審判は厳正にてきぱきと行う。疑問点は本部に問い合わせる。

（3）線審は一ヶ所に一名のみ着席し、明確に判定する。

（4）試合終了後はすぐに本部に用具（含シャトル）を返し、結果を報告する。

（5）会場内の付属物にシャトルが触れた場合にはフォルトとする。

7 危機管理対応

（1）各チームの引率者は、会場までの往復経路間での事故や災害（雷雨等）など緊急時の連絡方法や避難場所、避難方法等の確認をする。

（2）会場内の避難経路を確認する。

（3）地震、火災等発生時は、本部や体育館担当者の指示に従って行動する。

（4）事故等が発生したら、本部へ連絡する。

（5）生徒の健康観察をしっかり行う。生徒の健康安全を第一に考える。

8 その他

（1）試合時間、コートなどが変更される場合があるので、常に進行の状況や放送に注意する。

（2）本部の指示に注意し、直ちに指示通りに行動する。

（3）その他、不明な点や疑問、特別な事情・配慮が必要な場合など、事前に本部に問い合わせる。

（4）この規定は、2025年4月28日より実施する。

令和 7 年度 大会実施要項

1. 大会名

(1) 第 64 回東京都中学校総合体育大会・第 72 回バドミントン選手権大会
兼 第 56 回関東大会予選

(2) 第 68 回東京都中学校バドミントン新人大会

2. 主催・主管・期日・会場・参加数・申込期日

別表の通り

3. 種 目

男子団体・女子団体・男子シングルス・女子シングルス・男子ダブルス・女子ダブルス

4. 競技規則

現行の（公財）日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程、同公認審判員規程及び都中体連バドミントン部大会実施上の規定による。

5. 競技方法

原則としてトーナメントにより行う。すべての大会で順位決めのため、3 位決定戦を行う。団体戦は、5 名以上 8 名以内で構成したチーム対抗戦とする。1 対抗は複 1・単・複 2 の順でいずれか 2 点先取で勝敗を決定する。1 選手は 1 対抗に 1 回のみ出場できる。（単複兼ねられない）

6. 参加資格

東京都バドミントン協会登録の生徒で、各ブロックの代表と認められたものとする。ただし、新人大会には 3 年生は参加できない。個人戦の参加は一人一種目とする。会場枠として、会場を確保した者の所属チーム、所属地区またはブロックから、当該会場で行われる種目に各 1 本ずつ参加できる。

氏名、チーム名がプログラムやホームページに掲載されることを了承すること。

7. 監督・引率者

大会実施上の規定に準ずる。

8. シャトル

ヨネックス・アイベックススポーツ・落合コーポレーション・VICTOR SPORTS・ミズノ、5 社の検定水鳥球とする。

9. 参加費

団体戦 1 チーム男女各 8,000 円

シングルス 一人 1,000 円 ダブルス一組 2,000 円

10. 申し込み

各ブロック委員長または副委員長が、参加費を添えて常任委員会に持参し申し込む。委員長・副委員長が、出席できない場合は、そのブロックの専門委員が代わって申し込む。

また、申し込み期日前日の正午までに、申込書を所定のメールアドレスに送信する。

11. 組み合わせ

原則として、申込期日に常任委員会を開催し、常任委員が組み合わせを作成する。

大会期日・会場等一覧

別表

大会名	主催(主管)	期日	種目	会場(会場担当)	参加数	申込期日
第64回 都総体 第72回 選手権大会 第56回 関東大会予選	都教委 都中体連 (バドミントン部)	7/23 (水) 7/24 (木)	団体 個人	駒沢オリンピック公園 総合運動場屋内球技場 (B7ブロック) 東京体育館(B7ブロック)	ブロック各4 新人大会ベスト 4はそのブロッ クにプラス1 ★会場枠+1	7/15 (火)
第68回 新人大会	都中体連 (バドミントン部)	11/22 (土) 11/24 (月)	団体 個人	葛飾区奥戸 総合スポーツセンター (C7ブロック) 稲城市総合体育館 (D7ブロック)	ブロック各4 選手権大会ベス ト4はそのブロ ックにプラス1 ★会場枠+1	11/18 (火)

※都中体連主催以外の大会日程

全日本ジュニア選手権大会東京都予選会 8月 日() 会場:

令和7年度ステップアップトーナメント大会 8月 日() 会場:

第26回東京都冬季大会 1月17日(土) 会場:台東区リバーサイドスポーツセンター
18日(日) 会場:稲城市総合体育館

第56回関東中学校バドミントン大会

8月 7日(木)～8月 9日(土) 会場: 神奈川県小田原アリーナ

第55回全国中学校バドミントン大会

8月21日(木)～8月24日(日) 会場: 大分県クラサ武道スポーツセンター

第26回全日本中学生バドミントン選手権大会 3月20日(金)～3月22日(日)

会場: Asue アリーナ大阪

各中学校長様
各チーム代表者様
バドミントン部顧問様

東京都中学校体育連盟会長 金子 哲朗
都中体連バドミントン部部長 新井 博幸

令和 7 年度 第 64 回東京都中学校総合体育大会
第 72 回東京都中学校バドミントン選手権大会
第 56 回関東中学校バドミントン大会予選

実施要項

- 1, 主 催 東京都教育委員会 東京都中学校体育連盟
- 2, 後 援 東京都バドミントン協会
- 3, 主 管 東京都中学校体育連盟バドミントン競技部
- 4, 期 日 7月23日（水）駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場 団体戦 9:00開場・受付
会 場 7月24日（木）東京体育館 個人戦 9:00 開場・受付
- 5, 種 目 男女団体、及び個人戦単・複（一選手が単複に重複して参加できない）
- 6, 競技規則 現行の（公財）日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程、
同公認審判員規程ならびに大会運営規定に準じる
- 7, 競技方法 (1)トーナメント方式により優勝を決定する（3位決定戦は原則行う）
(2)団体戦は先取マッチ(試合)方式にて行う。複2・単1の対抗とし、複1・
単・複2の順に行う。（同一選手が、単と複1・2及び、複1と複2を兼ね
て出場することはできない）
- 8, 参加資格 東京都バドミントン協会登録の生徒で、各ブロック代表と認められた生徒
氏名、学校名・チーム名がプログラムやホームページに掲載されることを了承
すること。
- 9, 参加の数 ・各ブロック男女各4チーム（人・組）
・直前の新人大会ベスト4のブロックはプラス入賞数
・会場枠該当チームはその種目プラス1
- 10, 参加申込 各ブロックの委員長が組み合わせ会に申込書を持参し、申し込む
- 11, 参加費用 団体 1チーム男女各8,000円 単 1,000円 複 2,000円
- 12, 組合せ会 常任委員会にて責任抽選で行う
- 13, 表 彰 各種目四位までに賞状および賞品を授与する
- 14, シャトル ヨネックス・アイベックススポーツ・落合コーポレーション・VICTOR SPORTS・
ミズノ 5社の検定水鳥球とする。
- 15, その他 ・監督・引率者は大会実施上の規定に準じ、受付時に参加確認書を提出し受付を
済ませること。部活動指導員が引率した場合には、部活動指導員確認書も併せ
て提出すること。
・集合時間、タイムテーブルなど詳細をホームページに掲載するので、確認する
こと。
・上下履きの区別をし、礼儀や態度をしっかりとすること。
・服装は日本バドミントン協会審査合格品とする。関東記念Tシャツ(過去3年ま
で)の着用は認める。背中に規定の校名をつける。ゴミは各自、必ず持ち帰るこ
と。
・詳細は「バドミントン大会実施上の規定」に従って行動すること。
・参加校は審判団として選手を含め4人を引率する。また、やむを得ず審判の人
数が不足する場合、当該チームがあらかじめ同ブロック内で協力を依頼する。

各中学校長様
各チーム代表者様
バドミントン部顧問様

東京都中学校体育連盟会長 金子 哲朗
都中体連バドミントン部部長 新井 博幸

令和 7 年度

第 68 回東京都中学校バドミントン新人大会

実施要項

- 1, 主 催 東京都中学校体育連盟
- 2, 後 援 東京都バドミントン協会
- 3, 主 管 東京都中学校体育連盟バドミントン競技部
- 4, 期 日 11 月 22 日 (土) 葛飾区奥戸総合スポーツセンター 団体戦 9:00 開場・受付
会 場 11 月 24 日 (月) 稲城市総合体育館 個人戦 9:00 開場・受付
- 5, 種 目 男女団体、及び個人戦単・複 (一選手が単複に重複して参加できない)
- 6, 競技規則 現行の (公財) 日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程、
同公認審判員規程ならびに大会運営規定に準じる。
- 7, 競技方法 (1) トーナメント方式により優勝を決定する (3 位決定戦は原則行う)
(2) 団体戦は先取マッチ (試合) 方式にて行う。複 2・単 1 の対抗とし、複 1・
単・複 2 の順に行う。(同一選手が、単と複 1・2 及び、複 1 と複 2 を兼ね
て出場することはできない)
- 8, 参加資格 東京都バドミントン協会登録の生徒で、各ブロック代表と認められた生徒
氏名、学校名・チーム名がプログラムやホームページに掲載されることを了承
すること。
- 9, 参加の数 ・ 各ブロック男女各 4 チーム (人・組)
・ 選手権大会ベスト 4 のブロックはプラス入賞数
・ 会場枠該当チームはその種目プラス 1
- 10, 参加申込 各ブロックの委員長が組み合わせ会に申込書を持参し、申し込む
- 11, 参加費用 団体 1 チーム男女各 8,000 円 単 1,000 円 複 2,000 円
- 12, 組合せ会 常任委員会にて責任抽選で行う
- 13, 表 彰 各種目四位までに賞状および賞品を授与する
- 14, シャトル ヨネックス・アイベックススポーツ・落合コーポレーション・VICTOR SPORTS・
ミズノ 5 社の検定水鳥球とする。
- 15, その他 ・ 監督・引率者は大会実施上の規定に準じ、受付時に参加確認書を提出し受付を
済ませること。部活動指導員が引率した場合には、部活動指導員確認書も併せ
て提出すること。
・ 集合時間、タイムテーブルなど詳細をホームページに掲載するので、確認する
こと。
・ 上下履きの区別をし、礼儀や態度をしっかりとすること。
・ 服装は日本バドミントン協会審査合格品とする。関東記念 T シャツ (過去 3 年ま
で) の着用は認める。背中に規定の校名をつける。ゴミは各自、必ず持ち帰るこ
と。
・ 詳細は「バドミントン大会実施上の規定」に従って行動すること。
・ 参加校は審判団として選手を含め 4 人を引率する。また、やむを得ず審判の人
数が不足する場合、当該チームがあらかじめ同ブロック内で協力を依頼する。

団体戦 参加確認書
(選手登録用紙)
(男子・女子)

大会名	第 回 東京都中学校バドミントン 大会			
期 日	年	月	日	ブロック
登 録 選 手 名				
1		年	5	
協会番号			協会番号	
2		年	6	
協会番号			協会番号	
3		年	7	
協会番号			協会番号	
4		年	8	
協会番号			協会番号	

ふりがな 監督 (1名)		校長	部活動指導員の任命者
		教員	
		部活動指導員	
		代表者 指導者	
ふりがな コーチ (1名)		校長	部活動指導員の任命者
		教員	
		部活動指導員	
		代表者 指導者	
外部指導者 (1名)		※ここは本部記入用です。記入しないで下さい。 IDカード・申請中(外部指導者証番号)	

上記の通り参加します。

学校名 (チーム名) _____

校長名 (代表者名) _____ 公印

- ※ 監督・コーチ・外部指導者欄には当日参加される方のみを記入して下さい。
- ※ 監督は参加校(チーム)と同じ学校(チーム)の教員もしくは部活動指導員、代表者及び外部指導者でなければなりません。
- ※ 監督およびコーチ欄の横にある項目に○をし、いずれかが部活動指導員の場合、任命権者を記入してください。
- ※ 選手名はフルネームで記入してください。
- ※ 登録選手以外は、試合に出場できません。提出後の選手変更はできません。
- ※ 複数で引率する場合は、1名を監督、他方をコーチ(1名)として登録してください。
- ※ 大会当日、受付に提出して、監督証・コーチ証・助言者証を受け取り、必ず着用してください。
- ※ 外部指導者は、運動部指導者証(IDカード)を提示し、必ず着用してください。申請中の場合は、申請書のコピーを提示し、外部指導者証を受け取ってください。

個人戦 参加確認書 (男子・女子)

大会名	第 回 東京都中学校バドミントン 大会											
期 日	年 月 日				ブロック							
シングルス	1 位				年		1 位				年	
		協会番号						協会番号				
	2 位				年		2 位				年	
		協会番号						協会番号				
	3 位				年		3 位				年	
		協会番号						協会番号				
	4 位				年		4 位				年	
		協会番号						協会番号				
位				年		位				年		
	協会番号						協会番号					
位				年		位				年		
	協会番号						協会番号					
位				年		位				年		
	協会番号						協会番号					
位				年		位				年		
	協会番号						協会番号					

ふりがな 監 督 (1 名)		校 長	ふりがな コ ー チ (1 名)		校 長	部活指導員の任命者
		教 員			教 員	
		部活指導員			部活指導員	
		代表者 指導者			代表者 指導者	
		外部指導者			外部指導者	
外部指導者 (1 名)		本部記入用 IDカード・申請中 (外部指導者証番号)				
引率者氏名		引率者の身分	学校職員・外部指導者・保護者・チーム関係者			

上記の通り参加します。

学校名 (チーム名) _____

校長名 (代表者名) _____ 公 印

- ※ 監督・コーチ・外部指導者欄には当日参加される方のみを記入して下さい。
- ※ 監督は参加校 (チーム) と同じ学校 (チーム) の教員もしくは部活動指導員、代表者でなければなりません。
- ※ 監督およびコーチ欄の横にある項目に○をし、いずれかが部活動指導員の場合、任命権者を記入してください。
- ※ **選手名はフルネームで記入し、ふりがなを付けてください。**
名前の下段に協会登録番号を記入してください。
- ※ 複数の方で引率する場合は、1 名を監督、他方をコーチ (1 名) として登録してください
- ※ 大会当日、受付に提出して、監督証・コーチ証・助言者証を受け取り、必ず着用してください。
- ※ 外部指導者は、運動部指導者証 (IDカード) を提示し、必ず着用してください。申請中の場合は、申請書のコピーを提示し、外部指導者証を受け取ってください。
- ※ 引率者氏名は、校長・教員・部活指導員・代表者、指導者以外が引率するときのみ記入してください。
[大会実施上の規定 2-(2)] による

審判委員会《令和6年度 事業報告》

1. 運営に関して

- (1) 初回戦の審判・・・シードのチームと試合開始時間が遅いチームおよび会場枠のチームを中心に依頼した。
- (2) 準決勝以降の線審・・・ベスト8で敗退したチームに複数回担当してもらった。割り振りは競技部に依頼した。
- (3) 審判要員の依頼・・・個人戦においては出場チームに、選手以外に審判要員を引率してもらうように実施要項等に明記し依頼した。しかし、審判要員が不足するチームには、同一ブロック内に依頼を要請し、それでも不足した場合は会場枠のチームに所属する生徒に依頼した。
- (4) 教員による主審・・・準決勝、3決、決勝のみ教員が主審を行った。なお、審判委員会所属の委員に加え、他委員会所属等の先生方の協力を得た。
- (5) 会場・コートに関して
 - ① 開会前に計測器でネットの高さを確認した。試合の合間に緩んでいる時は張り直した。
 - ② ラインジャッジの椅子は、原則として主審が見て右手前と左奥に配置した。
 - ③ コーチ席をエンドライン側に配置する場合、ラインシジャッジの椅子から離して置いた。
 - ④ 必要に応じて、ポストとネットの結び目に隙間がある時はスズランテープ等で補強した。

2. 主審に関して

- (1) シャトルの交換に関して・・・競技を中断させないために、試合ごとに筒1本（1ダース分）のシャトルを渡し、使用済みシャトルのみ本部へ返却させ、シャトル交換で競技が中断しないように努めた。
- (2) サービスフォルトに関して・・・サービスのフォルトは、判断に迷う微妙な場合は1度注意を与える（「次からはフォルトにします」と伝える）ようにした。

3. その他、競技中の対応について

- (1) 試合中のけが・・・主審は本部役員を呼ぶ（その場で手を挙げる）こと、コーチ席の顧問等がコート内に勝手に入らないようにすることを周知した。
- (2) 主審への質問・・・団体戦の場合は監督または当該プレーヤー、個人戦の場合は当該プレーヤーが丁寧に質問するよう周知した。

4. その他

- (1) 公認審判員規定の理解と指導について・・・各校で生徒向けに配布できるように「主審のコールの仕方」、スコアシートの記入見本を総会冊子やプログラムに掲載した。
- (2) 東京都バドミントン協会の協力により、準3級（生徒）および3級（顧問・指導者等）の公認審判員資格付与のための審判講習会を12月1日（日）に開催した。

審判委員会《令和7年度 事業計画》

1. 運営に関して

- (1) 審判は敗者チームが務めることを原則とする。ただし、初回戦のみ出場チームの中から、試合進行等をふまえ、開会式等で通告したチームに依頼する。

団体戦では出場登録選手、個人戦では出場選手および審判要員として来場する生徒等が務める。

もし、不足の場合は、当該チームがあらかじめ同一ブロック内に審判を依頼する。ただし、準決勝以降は、ベスト4決めの敗者チームに依頼する。

- (2) 各大会の準決勝・3決・決勝は、原則教員が主審を務める。
- (3) 短縮ポイントの実施は「21点1ゲーム」か「15点3ゲーム、延長は21点まで」とする。
- (4) 会場・コートに関して

＊大会開始前にネットの中央部分（152.4cm）を計測する。途中、緩んでいるときは張り直す。

＊線審の椅子は、主審から見て右手前と左奥に配置する。

＊コーチ席をエンドライン側に配置する場合、線審の椅子から離して置く。

＊可能な限り、コーチ席背もたれとライン間を2m空ける。

＊ポストとネットの結び目に隙間ができる場合、スズランテープ等で補強する。

＊会場担当チーム（地区・ブロック）生徒に適宜モップがけを依頼する。（シャトル片の掃除のため）

2. 主審・線審に関して

- (1) サービスフォルト・・・判断に迷う微妙な場合は1度注意を与える（「次からはフォルトにします」と伝える）ようにさせ、プレーヤーの自覚を促すようにしたい。
- (2) 不品行な振る舞い・・・過度な奇声を発するプレーヤーには注意を与えるよう指導する。
- (3) シャトルの交換・・・プレーを中断させないために、試合開始前にシャトルを筒に入れて渡す。
- (4) スコアシート・・・ダブルスの最初のサービス・オーバー後の点数の記入欄に間違いが多いので注意を促す。生徒審判が本部に報告した時に記入の間違いがあれば、生徒本人に訂正させるよう心がける。

(5) 生徒審判員に対する指導

- ① 教員審判員は、試合前後等で必要に応じて生徒審判員に技術指導を行い、審判技術の向上に努める。
- ② アウトの場合はジェスチャーとともに「アウト」と声を出してジャッジするように指導する。
- ③ 審判席の座り方について「椅子の背もたれに寄りかからず、背筋を伸ばして着席する。深めの着席は可」を基本に適宜指導する。

(6) その他

試合中に怪我やトラブルなどにより試合の進行に支障をきたす事象が発生した場合は、主審は速やかに「右手を高く上げて」競技役員長に知らせるよう開会式等で通告する。

3. 監督・コーチに対する対応について

- (1) 服装・・・マッチ(試合)にふさわしい服装で臨むこと。ジーンズやビーチスタイル、バミューダ、
ショーツ、スリッパとサンダルは禁止とする。(競技規則の周知・徹底を図る)
- (2) アドバイス・・・団体戦で複数コートに開く場合や個人戦で同一校の選手が複数のコートでプレーしている時、当該選手にアドバイスをするにはそのコートのコーチ席に着席するように指導する。会場の広さ等の関係でコーチ席を設置しない場合はインターバル以外のコーチングはなしとする。
- (3) チェンジエンス時・・・ゲーム間のインターバルでは、チェンジエンスしてからコーチングができる。
- (4) モバイル機器の使用・・・コーチ席に着席中は、モバイル機器の使用は禁止とする。呼び出し音が鳴った場合でも競技役員長からの「警告」となる。
- (5) 審判への質問は、団体戦の場合は監督または当該プレーヤー、個人戦の場合は当該プレーヤーのみ可。
- (6) 試合中に怪我をした場合の主審の対応は下の4点を基本とする。
 - ① 主審は、選手にプレーが続行できるか(またはリタイアするか)どうかを確認する。
 - ② 主審は、選手から「できる(続行する)」ことを確認できた場合は試合を止めない。または、選手から「できない」と申告があった場合は、速やかに競技役員長を呼ぶ。
 - ③ 出血を伴う場合は、主審はすぐにプレーを中断してストップウォッチを押してスタートし、競技役員長を呼ぶ。
なお処置後、コートに血液がついている場合は、速やかに消毒液等を用いて適切に処理をする。
 - ④ 選手に足のけいれんがおきても、主審は試合を止めたり治療したりの措置はとらない。
 - ⑤ ③④の時に競技役員長を呼ぶ方法は「右手をまっすぐ上に挙げる」。

4. 公認審判員規程の理解と審判技術の指導について

ブロック、地区大会のプログラムに掲載用、各校で配布用に「主審のコールの仕方」・「主審の進め方」・「線審のやり方」をホームページにアップしてある。地区、ブロック大会でもできるだけ都大会と同じようなコールの仕方で行ってほしい。

5. 公認審判員資格取得への普及活動

- (1) 都協会の審判検定会の情報をホームページに掲載して、資格取得の為の普及を図る。各ブロックの専門委員の中に複数の有資格者を配置したい。顧問は「都中体連バドミントン部」で日々に登録できる。
- (2) 各支部（区市町村）で登録している顧問で審判検定を希望される方は、各支部経由で東京都バドミントン協会に検定会の開催を依頼する。
- (3) 東京都バドミントン協会の協力を得て、準3級（生徒）、3級（顧問・指導者向け）の審判員資格取得のための講習会を、11月30日（日）に開催予定である。詳細は改めてお知らせする。

主審の進め方について

東京都中学校体育連盟バドミントン部審判委員会

主審の進め方についてまとめてみました。各顧問会等で配布して各大会でご活用ください。

I 主審の流れ

- (1) 本部からスコアシート、(シャトル)を受け取る。
- (2) コートへ着いたらストップウォッチを確認し、スイッチを押す。3分経っても選手が来なければ本部に伝えて呼び出してもらう。線審や得点係がそろっているかも確認する。
- (3) 団体戦は、初めに両チームを整列させ、オーダーの選手名を読み上げ、監督と出場選手がいるか確認をする。
- (4) 担当する試合(マッチ)の選手を集め、名前を確認する。ダブルスはどちらの名前がどちらの選手か、特徴をスコアシートにメモするなどしてもよい。(提出時に消さなくてよい)
- (5) 選手のウェア(服装)をチェックする。
- (6) ジャンケンで勝った側にサービス、レシーブ、エンドのどれを選ぶかをたずねる。
 - ① 勝った側がサービスを選んだら、負けた側はエンドを選ばせる。
 - ② 勝った側がレシーブを選んだときも、負けた側にエンドを選ばせる。
 - ③ 勝った側がエンドを選んだら、負けた側にサービスかレシーブを選ばせる。
- (7) エンド、サーバー、レシーバーをスコアシートに記入する。
- (8) プレーするエンドが決まったら選手の荷物を主審側のコートサイド、ショートサービスライン付近にラケットバッグの中に入れて置かせる。タオル、水筒、試合中に切れたときに交換する予備のラケット、シャトル(筒)も床に直置きせず、バッグの中に入れさせる。
- (9) 確認が終わったら速やかに審判台に上がる。
- (10) 試合前のウォームアップ時間が与えられていない場合は直ちに試合を始める。(練習1本などさせない。)時間が与えられている場合は、ストップウォッチを作動させ、主審の合図でシャトル打ちを始めさせる。指定された時間はすべてが練習時間ではなく、試合開始までの時間である。時間内にラブオールプレイのコールを出せるように練習をやめさせる。例:ウォームアップ時間 3分の場合、2分30秒くらいには「Ready to play. (試合の準備をしてください。)」と告げる。
- (11) 得点が入ったら素早く記入できるように鉛筆を記入するマスに合わせておくといよい。
- (12) シャトルがコートに落ちたら直ちに線審に目を向けジャッジを確認する。
- (13) 最初の10点とゲームポイントに達したときはストップウォッチを準備し、11点目、ゲームが決まったら直ちにストップウォッチを押し、インターバルを開始する。
- (14) チェンジエンスのときは、先にエンドを換えてから給水したりアドバイスをもらったりするようにさせる。(団体戦の場合の選手席は移動しない。コーチがエンドを変えた選手のところに行ってアドバイスをを行う。)
- (15) 時間になったら両者に聞こえるように「Court 1, twenty seconds. (1コート 20秒)」などのコールを2回繰り返す。(それぞれの選手の方のコートに向いてコールすると良い)
- (16) 残り20秒後の行動が遅いときは、急がせる。「コートに入ってください」「コーチは戻ってください」(ファイナルゲームの11点のインターバルはエンドを変える時間も含まれているため、コーチングが長引きやすいので注意)
- (17) 試合後の勝者サインは主審が代わりに行き、勝者に確認後、試合終了のコールをする。(勝者自身がサインをする場合でも、スコアを確認してサインをもらってから試合終了のコールをする。試合終了のコールが先にされるケースが多いので改善)
- (18) 試合が終わったら、直ちにスコアシートの未記入部分などを完成させ、使用済みシャトル、鉛筆などを本部に返却してスコアシートシートのチェックを受ける。

2 知っておくべきこと

- (1) マッチ（試合）中、主審はいかなることがあっても審判台から降りない。審判台を使わず立ち審判の時は、コートから離れない。
例えば、線審に注意を促したい時は、自分が線審のところに行くのではなく線審を呼ぶ。シャトル補充の時は、左手で筒を頭の上に上げるか、大会によっては、線審に取りに行かせる。
- (2) ゲーム中、選手がコートから出て、ベンチやコーチのところに行ったりしないように注意する
違反する行為があった場合は、その選手の名前を呼び、主審のところに来させ、主審の許可を得る
う注意を与える。ガットが切れたときも主審に許可を得てから交換させる。（ラリー中に換えるときを除く）
- (3) 甲高い声、あまりにも耳障りな声は注意する。（何度も注意しても繰り返す場合は「不品行な振る舞い」としてイエローカードの対象となる）
- (4) ベンチからの応援は拍手のみで、声援、うちわやスティックバルーンなどで音を出す応援は禁止。
立ち上がっての応援は禁止。あまりにひどい場合は本部の先生を呼ぶ。

3 線審が2名の試合で、主審が担当するラインについて（サービス時のみ）

- (1) ショートサービスライン
サービスがレシーバー側ショートサービスラインよりネット側に落ちた場合は、「アウト」とコールする。インはコールしない。必要に応じてインのジェスチャーをする。
【注意】
 - ① サービスがネットに当たってレシーバー側ネット付近に落ちた場合も「アウト」とコールする。
 - ② サーバー側に落ちた場合はフォルト、ネットに乗ったり、超えた後引っかかった場合も「フォルト」とコールする。
- (2) センターライン
アウトの場合は、「アウト」とコールする。インはコールしない。必要に応じてインのジェスチャーをする。
【注意】
 - ① 右コートから打たれたサービスか、左コートから打たれたサービスか確認しておく。
 - ② 線審はバックバウンダリーラインとダブルスのロングサービスラインのみを判定しているので
惑わされないよう気を付ける。

4 ルールの改正等の確認

- (1) オーバーネット（競技規則第13条 第4項（2）（3））打点がネットより打者側であれば、その瞬間ラケットがネットを超えていてもフォルトにならない。しかし、相手を著しく妨害すればフォルト。
- (2) サーブ、レシーブの体勢が整えた後は、両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない。
※サーブや、レシーブの位置についたら、プレーヤーが、準備できていないことを示すために手を挙げている場合でも、サーバーがたって何もしない場合やラケットを左右に動かしている場合でも、過度の遅延は不当な行為になり、主審の判断で、サーバーまたはレシーバーに遅延行為として「フォルト」にする場合がある。
- (3) レフェリーを読んでコールドスプレーはマッチ中一人1回認められていたが、認められなくなった。
- (4) 競技用ウェアの文字表記についてチェックが厳しくなった。（東京都中学校体育連盟バドミントン部大会実施上の規定 4 服装を参照）

主審のコールの仕方

- ① 最初のサービングサイドとレシービングサイドを決めるとき 「トス (じゃんけん) をしてください」
- ② プレーヤーを紹介するとき…省略
- ③ マッチ (試合) を始めるとき→「ラブ・オール、プレー」(「ファーストゲームラブオールプレー」とは言わない)
- ④ フォルトが起きたとき→「フォルト」(明らかなときは省略してよい)
レシーバーのフォルト→「フォルト、レシーバー」 サーバーのフォルト→「フォルト、サーバー」
- ⑤ レットにするとき→「レット」
- ⑥ サービングサイドがラリーに負けて、相手側のサービスになるとき
「サービス・オーバー」(必要なら、手で新しいサーバーと正しいサービスコートを目指す)
- ⑦ スコアをコールするときの例
 - (1) サービングサイドのスコアが8、レシービングサイドのスコアが3 「エイト・スリー」
 - (2) 5対5の同点→「ファイブ・オール」
 - (3) 第1ゲーム (または第2ゲーム) で、一方のサイドのスコアが11 点に達したとき(11-8 の場合)
→「(サービス・オーバーのときは、「サービス・オーバー」と言ってから) 11-8、インターバル」
 - (4) 60 秒のインターバルが40 秒経過→「~コート、20 秒 (2回繰り返す)」
 - (5) インターバルが終わったら→「11-8、プレー」
 - (6) サービングサイドがあと1点でゲームが終了するとき(例 20-14 の場合) 「20 ゲーム・ポイント・14」
 - (7) サービングサイドがあと1点でマッチ (試合) が終了するとき 「20 マッチ・ポイント・14」
 - (8) スコアが20 点オールになったとき→「20 オール」
 - (9) 一方のサイドのスコアが29 点に達したとき(例 29-28 の場合) 「29 ゲーム・ポイント (またはマッチ・ポイント)・28」
- ⑧ 第1ゲームが終了したとき
例 Xさん (A中学校) が21 対 18で勝った
「ゲーム (ストップウォッチをON にする)、ファースト・ゲーム・ワン・バイ・Xさん、A中学校、21-18 (1 ゲーム目 21 対 18でXさん、A中学校の勝ちです)」(最後の21 点目はコールせず、シャトルがコートに着いた瞬間に「ゲーム」とコールする)
- ⑨ エンドを交替させるとき→「チェンジ・エンズ」
- ⑩ 120 秒のインターバルで100 秒経過したとき→「~コート、20 秒 (2回繰り返す)」
- ⑪ 第2ゲームを始めるとき「セカンド・ゲーム、ラブ・オール、プレー」
- ⑫ 第2ゲームが終了して、第3ゲームに入るとき
例 第1ゲームで負けたYさん (B中学校) が21 対 15で第2ゲームに勝った
「セカンド・ゲーム・ワン・バイ・Yさん、B中学校、21-15、ワン・ゲーム・オール」
- ⑬ 第3ゲームを始めるとき→「ファイナル・ゲーム、ラブ・オール、プレー」
- ⑭ 第3ゲームで、一方のサイドが11 点になったとき
「11-?、チェンジ・エンズ、インターバル」、(移動後)「プレー」
- ⑮ マッチ (試合) が終わったとき
例 Xさん (A中学校) が21 対 18、17 対 21、21 対 10 でマッチ (試合) に勝った
「マッチ・ワン・バイ・Xさん、A中学校、21-18、17-21、21-10 (この試合は、21-18、17-21、21-10で、Xさん、A中学校の勝ちです)」
- ⑯ 一方のサイドが棄権してマッチ (試合) が終了したとき
例 Yさんが棄権して、Xさんがマッチに勝った
「Yさん、B中学校、棄権。マッチ・ワン・バイ・Xさん、A中学校 (全スコア)」
- ⑰ 違反したサイドを呼んで
 - (1) 警告を宣告するとき→「ウォーニング・フォー・ミスコンダクト」
 - (2) フォルトを宣告するとき→「フォルト・フォー・ミスコンダクト」
- ⑱ 一方のサイドが失格してマッチ (試合) が終了したとき
例 Yさんが失格して、Xさんがマッチに勝った
「Yさん、B中学校、失格。マッチ・ワン・バイ・Xさん、A中学校 (全スコア)」
- ⑲ 線審が明らかに間違った判定をしたと認めたとき
シャトルがインのとき→「コレクション・イン」、シャトルがアウトのとき→「コレクション・アウト」

その他

- ① シャトル交換が必要かどうかは主審が決定します。(試し打ちはさせないでください)
- ② マッチ(試合)中のけがや病気の場合、必要なら本部の先生をコートに呼びます。もし出血がある場合、出血が止まるまで、あるいは傷が保護されるまでゲームを遅らせます。その際、本部の先生が主審にプレー再開の指示をします。
- ③ 近隣のコートからシャトルが飛んできたとき、邪魔になったり、気をひかないようなら「レット」は、コールしなくてかまいません。

線審(ラインジャッジ)の心得

東京都中学校体育連盟バドミントン部 審判委員会

線審についての基本的な考え方、やり方を以下に示しました。内容を確認し、公正なジャッジをしていただくようお願いします。

<基本>

- (1)シングルスとダブルスでサイドラインが異なるので、種目に合わせて椅子の位置を変える。
- (2)サイドライン、バックバウンダリーライン、ダブルスの時はロングサービスラインが線審の担当するラインとなる。(センターライン、ショートサービスラインは主審が判定する。)

<姿勢>

両足の裏を床につけて、背筋をまっすぐにして座る。肘をモモに乗せて前傾したり、背もたれにのけぞったり、足を組んだりしない。

<心構え>

- (1)ジャッジは自信をもって素早く出す。
- (2)トラブルは、主審の判定より線審の判定の方が多いので、主審より線審の方が楽だと思わず、一打一打に集中する。
- (3)きわどい判定ほど早いジャッジをした方が選手も納得しやすいので、素早い判定を心がける。

<公認審判員規定より>

- (1)線審は担当ラインについて全責任を持つ、ただし、もし線審が明らかに間違った判定をしたと主審が判断して、線審の判定を変更する場合を除く。主審による線審の判定の変更は、線審の元の判定より優先されるものとする。
 - 主審が線審の判定を変更する時は、「コレクション・イン」(「インに訂正します」の意)または「コレクション・アウト」(「アウトに訂正します」の意)とコールする。
- (2)シャトルがコートの外に落ちた時は、どんなに遠くても、直ちにプレーヤーと観客によく聞こえるように、はっきりした大きな声で「アウト」とコールし、同時に主審がよくわかるように両腕を水平に広げて合図する。そしてすぐに主審を注視すること。
 - 明らかにインであっても合図する。右手はコート内下方に向けて指す。左利きの人も左手は使わないこと。
- (3)シャトルがコート内に落ちた時は、線審は無言で、右手でそのラインを指す。そして、審判を注視すること。
- (4)シャトルの落下点が見えなくて判定できなかった時は、両手で目を覆って主審に合図する。
 - 選手のシューズなどの陰で見えない時がある。また、選手がシャトル追って、迫って来たら椅子ごと避けて落下点を見るとよい。
- (5)シャトルがコート面に触れるまでは、コールや合図をしてはならない。
 - 先にコールや合図をしてしまうと、片方のプレーヤーに教えていることになる。
- (6)常にコールや合図をするべきであるが、フォルトに関する主審の判定に先行するコールをしてはならない。
 - 例えばシャトルがプレーヤーや着衣に当たったり、ラケットに当たったりした時など、いかにそれが明らかであっても、主審の判定に先行するコールをしてはならない。

※2本のラインを担当する場合やダブルスのロングサービスの場合、シャトルが落下するであろうと思われるラインの方向に、体を動かして、シャトルを見て判定をする。(線審が2人の試合では、サイドラインとバックバウンダリーラインの2本を担当するので、判定するライン上に目線がくるように一打一打ごとに頭を動かしてジャッジする。また、自分の担当するラインのジャッジのみをするので、コーナーに落ちたシャトルを判定するとき、当然バックバウンダリーラインとサイドラインの線審が異なるジャッジを出すこともある。(二人の線審が異なる判定をしても、どちらかの線審がアウトとコールすればアウトと分かるので、自分の担当ラインがインであるなら、インの合図を出すこと。)

※シャトルがコートに着く時、最初にコート面に確実にシャトルが触れたところで判定する。体(目線)を低くして見て判定をする。

<注意>

- (1)ダブルスの試合で相手側のコートのサイドライン・ポスト付近に落ちるシャトルはポストが陰になって見えづらいこともあるので注意する。
- (2)バックバウンダリーライン付近に落ちる速いスマッシュやプッシュはアウトをインと見間違えることが多いのでしっかり落下点を確認する。
- (3)選手から質問があったときは、返答せず、「主審に言ってください」という意味で主審の方へ手を向ける。

<その他>

- (1)インターバル中はリラックスしておく。線審の様子確認の為、主審がアイコンタクトをしてくることがある。
- (2)線審は、主審が審判台にいる間はコートから離れないこと。

指導普及委員会 令和6年度 活動報告

文責 氏井 聡

(1) 東京都中学生バドミントン講習会

期日	会場	対象
8月1日	練馬区立石神井西中学校	・関東大会個人戦 出場者
12月1日 12月8日 12月15日	私立 明治学院中学校 私立 錦城高等学校 立川市立第一中学校	・関東オープン大会都選抜選手 ・令和6年度都新人大会 2年生：ベスト4以上 1年生：ベスト8以上の選手
2月16日 3月9日 3月29日 3月30日	調布市立第三中学校 練馬区立石神井西中学校 練馬区立大泉中学校 学芸大学附属国際中等教育学校	・令和6年度都新人大会、冬季大会の 2年生：ベスト4以上 1年生：ベスト8以上の選手

(2) 東京都中学生バドミントン講習会（合宿）

今年度は実施せず。代わりに3月29日、30日に練習会を実施した。

(3) 令和6年度 全日本ジュニア東京都代表選手選考会

- ①期 日 令和6年8月15日
 ②会 場 練馬区立総合体育館
 ③結 果 男子：第一代表 石井 春馬 第二代表 山下 凛々人
 女子：第一代表 青木 愛 第二代表 広瀬 麗依

(4) 令和6年度 ステップアップトーナメント大会

- ①期 日 令和6年8月15日
 ②会 場 練馬区立総合体育館
 ③参加資格 各ブロックの予選の上位者で、JOC東京都予選に参加しない者
 ④結 果 男子1位：金岡 壮達 2位：岩瀬 剛大 3位：青山 天煌 ・ 濱井 七織
 女子1位：斎藤 翼 2位：臧 佳純 3位：有村 陽南 ・ 堀 維夏

(5) 2024ジュニアスポーツアジア交流大会

- ①主 催 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
②期 日 令和6年8月29日～ 9月1日
③会 場 駒沢体育館
④派遣選手 東京A 坂口 功、横田 絆、岩佐 幸太郎、青木 愛、高橋 結衣、福田 咲貴
東京B 金岡 壮達、田中 星太郎、鈴木 蒼介、佐藤 帆志乃、藤井 円花、齋藤 翼
⑤結 果 東京A : 第5位
東京B : 第12位

(6) 第29回関東オープン中学生バドミントン大会選手派遣

- ①期 日 令和6年12月26日～28日
②会 場 神奈川県 スカイアリーナ座間
③派遣選手 男子：石井 春馬、金岡 壮達、山下 凜々人、岩瀬 剛大、高橋 真生
女子：青木 愛、水尻 茉那、深串 紗希、郎 熙然、福田 咲貴
④結 果 男子：8位、女子：準優勝

(7) 第25回全日本中学生バドミントン選手権大会選手派遣

- ①期 日 令和7年3月21日～ 23日
②会 場 広島県 福山市 エフピコアリーナふくやま（福山市総合体育館）
福山通運ローズアリーナ
③派遣選手 男子：青戸 琳太郎、岩瀬 剛大、高橋 真生、川畑 海希
女子：青木 愛、福田 咲貴、郎 熙然、上田 涼菜
④結 果 予選リーグ 東京都 5-0 新潟県 東京都 3-2 青森県 予選リーグ突破
決勝トーナメント 東京都 2-3 滋賀県 ベスト16

指導普及委員会 令和7年度 活動計画

(1) 東京都中学生バドミントン講習会

期日	会場	対象
7月30日	葛飾区奥戸総合スポーツセンター	・関東大会個人戦出場者
11月30日 12月7日 12月14日	未定 錦城高等学校 未定	・関東オープン大会都選抜選手 及び都新人大会2年：ベスト4以上、 1年：ベスト8以上の選手
2月15日 2月22日 3月8日	未定 未定 未定	・都新人大会個人戦ベスト8以上の選手 ・全日中選抜選手 ・ // ・都新人大会・冬季大会個人戦 ベスト8以上の選手

※日程、会場は仮である。

※この日程の他、実業団との練習、他県との練習会も入ることがある。

(2) 東京都中学生バドミントン講習会（合宿）

- ①主 催 東京都バドミントン協会
- ②主 管 東京都中体連バドミントン部指導普及委員会
- ③期 日 令和8年3月26日～31日のいずれか2泊3日
- ④会 場 未定
- ⑤内 容 基礎・基本練習をもとに各種パターン練習、試合を行う。
- ⑥対象者 新人大会、冬季大会の結果をもとに各強化練習会によって男女各20名程度を選考する。

※状況により期間を限定した通いで練習会を行うこともある。

(3) 令和7年度ステップアップトーナメント大会

- ①主 催 東京都バドミントン協会
- ②主 管 東京都中体連バドミントン部
- ③期 日 令和7年8月 日（ ）
- ④会 場 未定
- ⑤参加者 各ブロックの予選の上位者で、JOC東京都予選に参加しない者。（3位～6位の4名）
※台風等で天候不順の場合は開催を延期、または中止する場合がある。
※得点は短縮ポイントで行う場合がある。

(4) 令和7年度全日本ジュニア東京都代表選手選考会

- ①主 催 東京都バドミントン協会
- ②主 管 東京都中体連バドミントン部
- ③期 日 令和7年8月 日 ()
- ④会 場 未定
- ⑤参加資格

東京都及び日本バドミントン協会に加盟しており、下記Ⅰ、Ⅱのいずれかの条件を満たす者

Ⅰ：東京都中学校体育連盟バドミントン部に加盟している生徒で、推薦を受けた男女各2名

Ⅱ：東京都小学生バドミントン連盟に推薦された小学生男女各2名

※天候不順の場合は開催を延期して行う。

(5) 第30回関東オープン中学生バドミントン大会選手派遣

- ①期 日 令和7年12月25日 ～ 27日
- ②会 場 茨城県 ひたちなか市
- ③選手選考 男女5名ずつ選考予定。
東京都新人大会の個人戦シングルス1位2位、ダブルス1位の選手から選考する。

(6) 第26回全日本中学生バドミントン選手権大会選手派遣

- ①期 日 令和8年3月20日 ～ 22日
- ②会 場 大阪府 大阪市
- ③選手選考 東京都冬季大会の戦績の内容を考慮して、男女各4名以内を選考する。

東京都中学校体育連盟 バドミントン部 規約

第1章 名称および事務局

第1条 本部は、東京都中学校体育連盟バドミントン部と称し、事務局を部長の指定したところに置く。

第2章 目的および事業

第2条 本部は、東京都中学校体育連盟（以下都中体連と略す）の規定に基づいて、東京都中学校生徒のバドミントン競技の発展普及につとめることを目的とする。

第3条 本部は、前条の目的達成のために、次の事業を行う。

- 1) 東京都中学校生徒の競技会の企画、運営。
- 2) 東京都中学校生徒の技能向上のための研究、および事業の企画、運営。
- 3) 東京都中学校生徒への指導、普及および審判技術向上のための研究、事業の企画、運営。
- 4) その他、目的達成に必要な事項。

第3章 構成および運営

第4条 本部は、都中体連規約に基づいて、都中体連に登録された中学校により構成し、各支部より2名選出された専門委員、および推薦専門委員により運営する。

第4章 組織

第5条 本部に、次の役員、委員、および各種委員会を置く。

- | | | |
|-------|-----|-----|
| 1) 役員 | 部長 | 1名 |
| | 副部長 | 若干名 |
| | 参与 | 若干名 |
| | 顧問 | 若干名 |

2) 会計監査委員 2名

3) 専門委員会

4) 常任委員会

5) 実務委員会 1. 総務委員会 2. 競技委員会 3. 審判委員会 4. 指導普及委員会 5. 会計委員会

6) ブロック委員会

第6条 常任委員会は、役員、各ブロック委員会委員長・副委員長、および推薦常任委員により構成する。

第7条 実務委員会は、常任委員を委員長、副委員長とする。各委員長は、必要に応じ、各専門委員に対して、所属を要請することができる。

第8条 推薦専門委員は、いずれかの実務委員会に所属しなければならない。

第9条 ブロック委員会は、各ブロックに所属する専門委員により構成し、委員長1名・副委員長1名ないし2名および必要な役職をおく。ただし、委員長・副委員長は推薦常任委員を除く。

第5章 役員、各種委員の選出

第10条 役員、および会計監査委員は、選考委員会（前記の常任委員をあてる）の推薦に基づいて、専門委員会が選出する。

第11条 推薦専門委員、推薦常任委員は、選考委員会または常任委員会の推薦に基づいて部長が委嘱する。

第12条 各実務委員長、副委員長は、常任委員会の互選により選出する。

第13条 各ブロック委員長・副委員長は、各ブロック委員会の互選により選出する。

第14条 各役員、委員の任期は2年間とし再任を妨げない。欠員補充の場合の任期は前任者の残存期間とする。

第6章 役員、委員の任務

- 第15条 部長は本部を総括し、部を代表する。副部長は、部長を補佐し、部長に事故ある時は、その職務を代行する。顧問は、この連盟の重要事項について部長の諮問に応ずる。参与は、この連盟の重要事項について部長と顧問の諮問に応ずる。
- 第16条 専門委員は、各所属支部バドミントン部の運営にあたる。また、ブロック委員として所属ブロックの運営に協力する。
- 第17条 専門委員は、各実務委員長の要請、および本人の希望により、各実務委員会に所属し活動する。
- 第18条 常任委員は、本部主催・主管の事業の運営にあたる。また、ブロック委員長・副委員長は、ブロック委員とともにブロック活動の運営にあたる。
- 第19条 会計監査委員は、本部の会計を監査し、専門委員会に報告する。

第7章 各種委員会の役割

- 第20条 専門委員会は、本部の最高決議機関とし、次の事項について審議する。
- 1) 役員、委員の選出
 - 2) 年間事業計画
 - 3) 予算、決算
 - 4) 本規約の改廃
 - 5) その他重要事項
- 第21条 常任委員会は、専門委員会の決定に基づいて、次の事項について審議、執行する。
- 1) 本部主催・主管の事業の企画、運営に関する事項。
 - 2) 予算執行に関する事項
 - 3) 専門委員会審議事項の原案作成。
 - 4) その他、必要事項。
- 第22条 各実務委員会の職務は、次の通りとする。ただし、各実務委員会の決定事項は、常任委員会の承認を得て実行する。
1. 総務委員会
 - 1) 専門委員会、常任委員会の開催企画、準備、通知。
 - 2) 主催大会の総務に関する事項の処理。
 - 3) 各委員会、各種事業（大会等）の記録の整理。
 - 4) 広報活動
 - 5) その他、必要事項
 2. 競技委員会
 - 1) 本部主催・主管競技会の要項作成、準備および競技運営の中心となる。
 - 2) 次年度の各主催・主管競技会の企画、準備。
 - 3) その他、必要事項
 3. 指導普及委員会
 - 1) バドミントン競技の普及および競技力向上についての指導法の研究。
 - 2) 競技の普及、競技力向上に関する講習会練習会等の企画準備、および運営の中心となる。
 - 3) その他、必要事項
 4. 審判委員会
 - 1) 主催大会の審判に関する事項の処理。
 - 2) 競技規則、審判法に関する研究。
 - 3) 審判に関する講習会等の企画、準備および運営の中心となる。
 - 4) その他、必要事項。
 5. 会計委員会
 - 1) 本部の予算・決算の原案作成。
 - 2) 予算執行に関する事務。
 - 3) その他、必要事項。

第23条 各実務委員会は、必要に応じて、各委員長が招集する。

第24条 各ブロック委員会は、専門委員会・常任委員会の決定に基づき、次の事項について、審議、執行する。

- 1) ブロック大会の企画・運営に関すること。
- 2) ブロック大会の会計に関すること。
- 3) その他、ブロックに関する、バドミントン競技の発展に寄与すること。

第8章 会計

第25条 本部の経費は、加盟費、大会参加費、その他の収入を持ってこれにあてる。

第26条 本部の会計年度は、毎年4月1日より、翌年3月31日までとする。

第9章

第27条 本部のブロック構成は、別表の通りとする。

第10章

第28条 本部の運営に必要な細則は、専門委員会の承認を得て、別に定めることができる。

第29条 特別に必要を生じた場合は、専門委員会の承認を得て、特別委員会を設けることができる。

第30条 本規約は令和6年4月25日より改正施行する。

東京都中学校体育連盟バドミントン部規約・別表

ブロックの構成（平成12年9月1日より）

ブロック名	所 属 支 部 名
A (第1・第2)	千代田・港・品川・大田 新宿・目黒・世田谷・渋谷
B (第3・第4)	中野・杉並・練馬 文京・豊島・北・板橋
C (第5・第6)	中央・台東・荒川・足立 墨田・江東・葛飾・江戸川
D (第7・第9)	武蔵野・三鷹・府中・調布・狛江 八王子・町田・稲城・多摩・日野
E (第8・第10・第11)	青梅・福生・あきる野・羽村・西多摩 立川・昭島・小金井・小平・国分寺・国立 東村山・西東京・清瀬・東久留米・武蔵村山・東大和
F (第12)	島嶼

A 申し合わせ事項の対象となる大会

東京都選手権大会（東京都総合体育大会） 東京都新人大会

B 参加本数

- ①団体・単・複とも、各ブロックの参加数は4本とする。
- ②選手権大会では、直前の新人大会で、ベスト4に入賞したブロックに、その本数分を加算し、上位から加算本数分をシードとする。
- ③新人大会では、直前の選手権大会で、ベスト4に入賞したブロックに、その本数分を加算し、上位から加算本数分をシードとする。
- ④申し込みにあたっては、各ブロックに、上位からシード分をシード1位～シード4位、シード分以外を1位～4位として申し込む。
- ⑤会場枠として、会場を確保した者の所属チーム、もしくは所属地区またはブロックから、当該会場でおこなわれる種目に各1本参加できる。会場枠の申し込みは、当該ブロック長が行う。常任委員会で、会場枠の選考に関して説明を求めることがある。

C 組み合わせの基本方針

- ①各ブロックのシードを含めた上位2本は1/2に分ける、また、上位4本は1/4に分ける。5本目以下は1/8に分ける。その際、できる限り左右のバランスを配慮する。ただし、選手権大会ではシード順位を優先し、入れ替えは行わない。
上位2本は1/2、上位4本は1/4に分ける このことは同列なので、くじを引いて優先を決定する。ただし選手権大会を除く。
- ②参加に欠員があった場合は、その部分を棄権扱いとし、その位置をシード下の位置とする。その順序は欠員のあった人数に応じて、第1シードから第4シードの順とする。Fブロックからの参加に欠員があった場合は上位扱い分から除いていく。
- ③同一チームが片寄っても変更はしない。
- ④新人大会では、全日本ジュニア大会への参加者は1/2の山に分ける。

D シードについて

- ①新人大会では選手権大会の上位4本、選手権大会では新人大会の上位4本に入賞したブロックをシードする。
- ②前大会の1位～4位のブロックを順に第1シード～第4シードとする。

E シード以外の組み合わせについて

- ①各ブロックの1位を抽選により、新人大会では5・6・7・8・12、選手権大会では9・10・11・12・13（Fブロックが4本参加の場合は14まで）に入れる。
- ②各ブロックの2位を1位の反対の1/2に抽選により入れる。ただし外シードがある場合は1/4で抽選を行う。
- ③各ブロックの3位・4位を、抽選によって残った番号に入れる。2本を同時に引き、番号の小さい方を3位、大きい方を4位とする。
- ④会場枠は第1～第4シード下の枠に抽選で入れる。
新人大会では、最初に会場枠を17～20から抽選する。25～28のうち会場枠と同じ1/4にある番号を組み合わせに加える。
会場枠以外の参加が31本以下の場合は29～32のうち、空いている番号から抽選し、残りは組み合わせから除外する。その際、左右の数のバランスが良くなるように配慮する。

F その他

- ①上記の規定をもっても解決できない事態が生じた場合は、常任委員会で、その都度協議をして決定する。
- ②前回大会個人戦でベスト4に入賞した選手が、年度の更新に伴ってブロックを変更して参加する場合、シードに関しては変更する場合がある。
- ③この規定は、令和6年4月25日より発効する。

発第 号
令和 年 月 日

令和 7 年度
東京都中学校 _____ 大会
実行委員会委員長（会長） 様

学 校 名 _____
校長氏名 _____ 公印
〒 _____
学校所在地 _____
T E L _____
F A X _____

部 活 動 指 導 員 確 認 書 （ 部 ）

本校が令和 7 年度東京都中学校 _____ 大会出場に際して、下記の者を
部活動指導員として承認しました。

ふりがな			
氏 名			
性 別		年 齢	歳
任命権者			
各競技専門部 独自の付帯事項			

- ※「任命権者」の記入例 … ○○区教育委員会、学校法人△△学園 等
- ※「各競技専門部独自の付帯事項」は、競技専門部から特に確認したい事項
や住所・電話番号等を示してください。
- ※任命権者が発行した任命書のコピーを添付して提出してください。
- ※この書類は、大会参加申込時に大会事務局（それぞれの競技専門部の
大会参加申込先）に提出してください。

令和7年2月13日

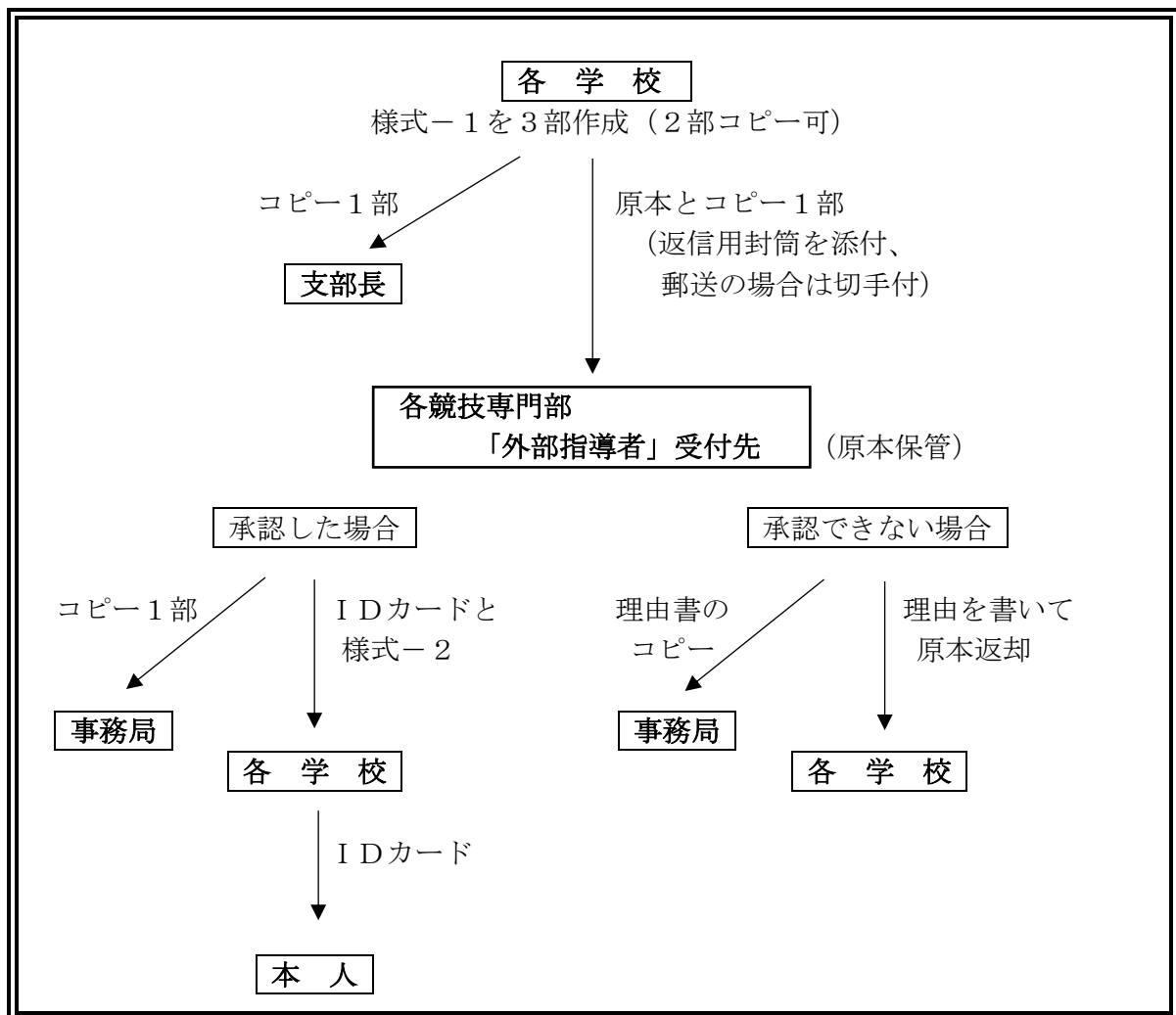
東京都中学校体育連盟
各支部長様
各支部理事様
各中学校長様
各競技専門部長様

東京都中学校体育連盟
会長 金子 哲朗

「外部指導者」登録申請から承認までの流れ

「外部指導者」は校長が任命し、顧問教諭と連携を図り、当該部活動の技術的指導を行います。

また、市区町村教育委員会が独自に採用している「部活動支援員」等は、市区町村教育委員会が認めている市区町村大会を除いて、ブロック大会・都大会では「外部指導者」の扱いになります。文部科学省令で認められた「部活動指導員」とは異なりますので、ご注意ください。



「外部指導者」登録申請書

東京都中学校体育連盟会長 様

学校名	学校
校長氏名	印
〒	
所在地	
TEL	
FAX	

次の者は、本校の外部指導者として委嘱し、日頃の部活動において顧問教員と共に熱心に指導に当たっていますので、外部指導者として登録を申請いたします。

令和 年 月 日

担当部名	部
氏 名	(男 ・ 女) (才)
自宅住所	〒
電 話	自 宅 携 帯
有効期間	令和 年 月 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日

※原本1部とコピー2部を作成し、原本とコピー1部を各競技専門部担当者に提出する。

また、コピー1部は支部長へ送付する。

※競技専門部担当者は原本1部を保管し、コピー1部は事務局に送付する。

